

主題：  
諸召会における失敗、召会の墮落、  
召会における勝利者、召会の回復、召会の各段階

メッセージ 10

召会の回復 (2)

キリストのからだの唯一の純粋な立場の真理をもって、その立場へと回復され、戻る

聖書：Ⅰテモテ 1:4. ユダ 3. マタイ 16:16. コロサイ 2:9. Ⅱコリント 13:14

- I. 召会は、三一の神とキリストのパーソンに関する真理からの逸脱を伴う、分裂的な背教の立場から回復される必要があります——Ⅱコリント13:14. マタイ16:16。
- II. 召会は、新約の信仰の真理と神のエコノミーへと回復される必要があります——ユダ 3. Ⅰテモテ1:4. エペソ1:9. 3:10：
- A. 神のエコノミーとは、キリストにおいて神ご自身を彼の選びの民の中へと分与する神の家の行政であり、それは神が家、家族を得て、ご自身を表現するためです。神の家族とは、キリストのからだである召会です——Ⅰテモテ 3:15. エペソ 1:22-23：
1. 使徒たちの務めはこの神のエコノミーを中心としていますが、異議を唱える者たちの異なる教えは敵に用いられて、神の民をこのエコノミーからそらしました——コロサイ 1:25. Ⅰコリント 9:17。
2. 神のエコノミーは信仰の中にある事柄です——Ⅰテモテ 1:4：
- a. 手順を経て、究極的に完成された三一の神をわたしたちの中へと分与することは、完全に信仰の領域と要素の中にあります——Ⅱコリント 13:14. エペソ 3:16。
- b. 神がご自身を彼の選びの民の中へと分与する神のエコノミーは、天然的な領域の中にも、律法の働きの中にもなく、キリストを信じる信仰の再生による新創造の霊的な領域の中にあります——Ⅱコリント 5:17. ガラテヤ 3:23-26。
- B. ユダ 3 節は、「聖徒たちに一度限り伝えられたその信仰」のために力を尽くして戦うことについて語っています：
1. この信仰は、「共通の信仰」、すべての信者に共通する信仰です——テトス 1:4。
2. その信仰は、わたしたちが信じることのような主観的な信仰ではなく、わたしたちが信じるものとしての客観的な信仰です——ユダ 3：
- a. その信仰とは、わたしたちが信じるもの、わたしたちの信仰としての新約の内容を指しており(使徒 6:7. Ⅰテモテ 1:19. 3:9. 4:1. 5:8. 6:10,21. Ⅱテモテ 3:8. 4:7)、わたしたちがそれを信じるのは、わたしたちの共通の救いのため、すべての信者に共通する、また彼らが保持している一般的な救いのためです。
- b. いかなる教理でもないこの信仰は、すべての聖徒に一度限り伝えられています。この信仰のために、わたしたちは戦うべきです——Ⅰテモテ 6:12。
- III. 召会は、キリストのパーソンと働きに関する真理へと回復される必要があります——マタイ16:16. ヨハネ1:1, 14. コロサイ2:9：
- A. 肉体と成ったキリストは神全体、すなわち、父、子、霊であり、肉体において現さ

れました——ヨハネ 1:1,14. コロサイ 2:9. I テモテ 3:16 :

1. 言である神は部分的な神ではありません。そうではなく、彼は三一の神全体、すなわち子なる神、父なる神、霊なる神です——ヨハネ 1:1,14. 14:9-10,15-18。
  2. キリストが肉体と成ったことにおいて神は肉体において現されましたが、それは御子としてだけでなく、神全体としてでもありました——I テモテ 3:16。
  3. キリストの中には、神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいます——コロサイ 2:9 :
    - a. 「神たる方の全豊満」は神たる方全体を指しています。こういうわけで、これは父、子、霊の豊満です。
    - b. 神たる方の全豊満がキリストの中に肉体のかたちをもって住んでいるとは、三一の神がキリストの中に具体化されていることを意味します。
- B. キリストが肉体と成った神であるのは、神と人の両方である神・人となるためです——ヨハネ 1:1,14. ルカ 1:31-32,35。
- C. キリストは彼の贖いの働きにおいて、わたしたちの罪のため、またわたしたち罪人のために十字架上で死に、その後、彼は復活しました。それによって彼はご自身を神聖な命として、わたしたちの中へと分け与えることができました——I コリント 15:3-4,20,45 後半。

#### IV. 召会は、三一の神のパーソンと分与に関する真理へと回復される必要があります——II コリント 13:14 :

- A. 神格の三一が新約において啓示されているのは、神の三一において神ご自身を、彼の選ばれ、贖われた民の中へと分与するためです——I ペテロ 1:2. マタイ 28:19。
- B. 三一の神の分与において、神は起源であるので、神の愛は源です。主は神の表現であるので、主の恵みは神の愛の経路です。その霊は神を伴う主の伝達であるので、その霊の交わりは、わたしたちが三一の神を経験し、享受するための、神の愛を伴う主の恵みの分け与えです——II コリント 13:14。
- C. 父は子の中に具体化され、子は変貌して、その霊と成り、その霊は神聖な三一がわたしたちに届くことです :
  1. 神格のすべての豊富は、その霊においてわたしたちに届きます——ガラテヤ 3:14。
  2. わたしたちは有機的にその霊と結合されているので、すなわち、手順を経て、究極的に完成された三一の神と有機的に結合されているので、彼であるものは何であれ、また彼が持っているものは何であれ、今や、わたしたちの実際である分け前です——I コリント 6:16. ヨハネ 16:13。